

PlateSpin Forge 4.0 リリースノート

2014年3月28日



バージョン 4.0 は Forge のハードウェアおよびソフトウェアのリリースで、新機能、機能強化、およびバグフィックスを提供します。

以前の 3.x リリースの、リリースノートのドキュメントについては、[PlateSpin Forge 4 マニュアルの Web サイト](#)にアクセスし、メインのページの下部にある目次の「[以前のリリース](#)」を確認してください。

- [1 ページのセクション 1 「このリリースについて」](#)
- [1 ページのセクション 2 「バグフィックス」](#)
- [2 ページのセクション 3 「既知の問題」](#)
- [4 ページのセクション 4 「連絡先情報」](#)
- [5 ページのセクション 5 「保証と著作権」](#)

1 このリリースについて

- [1 ページのセクション 1.1 「新機能」](#)

1.1 新機能

- Forge 3.3 の機能パリティおよび Forge 3.3 と 3.4 のアップグレード?
- システムボリュームが 2 TB よりも容量の少ないディスク上にある場合の UEFI Windows ワークロードのサポート。
- SLES 11 SP2 および 3、OES 11 SP1 ワークロードのサポート。

注: Forge 4 は、Windows 2012 または Windows 2012 R2 のサーバクラスのワークロードをサポートしません。

2 バグフィックス

このリリースは、以下のバグに対応しています。

- **672815 vNIC と vNetwork 間のマッピングが見つからないため初期完全レプリケーションを開始できません**: レプリケーションの準備操作中のいくつかの状況下では、コンテナのリフレッシュが、新規に作成されたフェールオーバー VM に関するインベントリ情報の収集を妨げ、これがネットワークのマッピングに影響してレプリケーションを害する可能性があります。
- **697049 vNIC の MAC アドレスが変更された後、保護コントラクトが壊れました**: 保護コントラクトをセットアップした後、フェールオーバー VM の仮想ネットワークアダプタの MAC アドレスを変更 (手動またはハイパーバイザによって自動的に) したことで保護が壊れました。

- ◆ **722096** コンテナをリフレッシュした後、インベントリからフェールオーバー VM 情報が削除される : 時々、PlateSpin Server はコンテナから情報を適切に取得できないことがありました。コンテナのリフレッシュ操作で、フェールオーバー VM に関する情報が削除されてしまい、保護契約およびフェールオーバーの機能に悪影響を及ぼすことがあります。
- ◆ **734525 (Linux)** ポート 3725 に接続できません : 2 つの NIC を使用した Linux ワークロードとの通信が管理される方法によって、時おり接続の問題が発生する場合があります。
- ◆ **736280 Linux** フェールバックにおいてエラーのある localhost.localdomain ホスト名 : ターゲットホスト名が [変更なし] に設定されていた場合、フェールバック時にワークロードに localhost.localdomain ホスト名が割り当てられました。
- ◆ **744867 NLB** クラスタホストのインベントリの問題 : Windows Network Load Balancing (NLB) Cluster ホストのコレクションおよび処理により、VM レプリカで環境設定の問題が発生する場合があります。
- ◆ **753157** 電子メールによるレポートレポートが正常に機能しない : 特定の状況で、PlateSpin Forge 電子メール通知の受信者として一覧にされている電子メールアカウントを削除すると、「フラッド」などの異常な動作が発生することがありました。
- ◆ **753449 (Windows)** 必要に応じてワークロードのホスト名を変更できない : 場合によっては、保護された Windows Server 2008 ワークロードのフェールオーバー VM がドメインに参加するよう設定されていると、そのフェールオーバー VM にシステムが新しいホスト名を割り当てることができませんでした。
- ◆ **756871 (Linux)** フェールオーバー後、ターゲットの 2 つの NIC のシーケンスが正しくありません : ターゲット NIC のマッピングによって、Novell eDirectory サービスが誤った NIC にバインドされるなどの問題が起こる場合があります。
- ◆ **762850 (Linux)** デフォルト以外のシェルを使用できない : PlateSpin Forge は、PlateSpin Protect Server がデフォルトで使用している Bash シェル以外のコマンドラインインタープリタを持つ Linux ワークロードを保護できていませんでした。PlateSpin Forge Server で使用しているデフォルトシェルを上書きして Linux ワークロードでコマンドを実行することができます。[ナレッジベースの記事 7010676](#) を参照してください。
- ◆ **768137 (Windows)** インクリメンタル中にレジストリハイブが正しく複製されません : Windows Server 2003 および Windows XP における Windows Registry 変更の処理方法によって、保護されたワークロードのレジストリと VM レプリカとの間で不一致が生じる場合があります。
- ◆ **770964 (Windows)** カスタム環境設定スクリプト実行時の問題 : 製品のバッチファイル処理方法に問題があり、特定のカスタム環境設定スクリプトが正常に実行されていませんでした。
- ◆ **770996** イベントレポートのユーザが正しくない : イベントレポートで、実際のユーザ名の代わりに system によって開始されたすべての [ワークロードの追加] ジョブが誤って表示された。
- ◆ **773097 (Windows XP)** フェールオーバー VM 上の SCSI コントローラタイプが正しくない : Windows XP ワークロードの VM レプリカに (LSI SCSI コントローラではなく) BusLogic SCSI コントローラが割り当てられ、フェールオーバー機能に悪影響を及ぼしていました。

3 既知の問題

- ◆ **Linux** ワークロードに対するソフトウェア RAID サポートなし : PlateSpin Forge は、ソフトウェア RAID のボリュームの Linux ワークロードをサポートしていません。

- ◆ **GUID パーティションテーブル (GPT) 規格のサポート** : PlateSpin Forge は、GPT ディスクパーティションレイアウト規格を使用するワークロードの保護をサポートしています。ただし、ターゲットは常に、MBR (マスタブートレコード) を使用して BIOS から起動するように設定されます。この制限は次のことを意味します。

- **ボリュームあたり最大 2 TB**: 保護されたワークロードの最大サイズは、2.19 テラバイトに制限されます。これは MBR で許可されるパーティションの最大です。

- **フェールバック用の物理ターゲットは BIOS からブートする必要があります** : ほとんどのハードウェアベンダーは、複数のディスクパーティショニング規格をサポートしていません。BIOS からブートするための物理ターゲットの設定方法、または“レガシーモード”(BIOS のサポートを使用) で動作させるための GPT ハードウェアの再設定方法については、ご使用のハードウェアベンダーのマニュアルを参照してください。

[ナレッジベースの記事 7005452](#) も参照してください。

- ◆ **558937 VSS を使用するブロックレベルのレプリケーションの失敗 (Windows)**: VSS ベースのサードパーティ製バックアップソフトウェアを使用している場合は、ブロックレベルのレプリケーションが場合によっては失敗することがあります。

回避策: ブラックアウトウィンドウ (『ユーザガイド』の「[保護ティア](#)」を参照) を使用します。

- ◆ **581860 中国語エディションの製品でブラウザの例外が発生する** : 特定のバージョンの中国語が追加されていないブラウザを使用して PlateSpin Forge Server に接続しようとする、Web ブラウザにエラーが発生する可能性があります。適切に動作するようにするには、ブラウザの環境設定を使用して特定の中国語 (たとえば、Chinese [zh-cn] または Chinese [zh-tw]) を追加します。文化的な区別のない Chinese [zh] という言語は使用しないでください。

- ◆ **590635 アップグレード後、フェールオーバーの結果が矛盾する** : PlateSpin Forge にアップグレードすると、フェールオーバーの操作が失敗したり、適切なホスト名やワークグループ設定などの正しいフェールオーバーパラメータが適用されなかったりする可能性があります。

回避策: フェールオーバーを実行する前に、レプリケーションを実行します。

- ◆ **595490 フェールバック時にブートパーティションを保持すると、フェールバックが停止する** : 一部のフェールバックシナリオでは、ターゲットのアクティブ (またはブート) パーティションの保持がシステムによって不適切に許可されるため、ターゲットが正しくブートしなくなります。この問題は調査中です。

回避策: [フェールバックの詳細] では、ターゲットのブートパーティションを保持することを選択しないでください。

- ◆ **610918 統合ヘルプ内の展開アイコンおよび縮小アイコンが反応しない** : 拡張ブラウザセキュリティ設定を使用した一部のシステム (Windows Server 2008 上の Internet Explorer 8 など) では、目次内の展開アイコンおよび縮小アイコン (+ および -) が機能しない場合があります。この問題を修正するには、ブラウザ内で JavaScript を有効にします。

- ◆ **Internet Explorer**: [Tools (ツール)] > [Internet Options (インターネットオプション)] > [Security (セキュリティ)] タブ > [Internet (インターネット)] ゾーン > [Custom level (カスタムレベル)] の順にクリックし、[Active Scripting (アクティブスクリプティング)] 機能用の [Enable (有効にする)] オプションを選択します。

- ◆ **Firefox**: [Tools (ツール)] > [Options (オプション)] > [Content (コンテンツ)] タブの順にクリックし、[Enable JavaScript (JavaScript を有効にする)] オプションを選択します。

- ◆ **611105 アップグレード後に保護契約が見当たらない** : Forge アプライアンスをバージョン 3 にアップグレードすると、*[Ready for Failback (フェールバックの準備ができました)]* または *[Ready for Reprotect (再保護の準備ができました)]* の状態にあるワークロードを持つ保護契約がユーザインタフェース上で見当たらない可能性があります。この問題は、次の修正の際に考慮されます。
- ◆ **655828 NSS ボリュームのマウント失敗** : フェールオーバー時またはフェールオーバーをテストした時に、スナップショットが有効になっている NSS ボリュームが期待とおりに自動的にマウントされません。
ナレッジベースの記事 [7008773](#) を参照してください。
- ◆ **680259 (VMware 4.1) トラフィック転送 VM により、ネットワークパフォーマンスが乏しい** : 一部のシナリオで、ネットワークトラフィックを転送するワークロードのレプリカ (たとえば、ワークロードの目的が NAT、VPN、またはファイアウォールのネットワークブリッジとして機能することである場合) は、ネットワークパフォーマンスの大幅な低減を示します。これは、LRO (Large Receive Offload) をもつ VMXNET 2 と VMXNET3 アダプタの問題に関連しています。
回避策: 仮想ネットワークアダプタの LRO を無効にします。詳細については、[VMware vSphere 4.1 リリースノート \(http://www.vmware.com/support/vsphere4/doc/vsp_esxi41_vc41_rel_notes.html\)](#) を参照してください。箇条書き項目「Poor TCP performance...」まで下にスクロールしてください。
- ◆ **686911 データストアとの間のファイルの送受信に問題がある** : 保護ターゲットが VMware DRS Cluster である特定の状況下において、システムはブート ISO イメージなどのファイルのアップロードまたはダウンロードが失敗する場合があります。これは保護コントラクトにマイナスの影響を与える可能性があります。
ナレッジベースの記事 [7008306](#) を参照してください。
- ◆ **698611 特定の状況下でのフルクラスタレプリケーションの障害** : Windows 2008 R2 クラスタ保護契約が既存の VM への同期を通じてセットアップされる場合、およびアクティブなクラスターノードがフルレプリケーションの前にひっくり返った場合、フルレプリケーションジョブが失敗します。
ナレッジベースの記事 [7008771](#) を参照してください。
- ◆ **781217 (SLES 9) UUID を使用してマウントされたボリュームの問題** : SLES 9 ワークロード上のマウントポイントがロックアップされる方法、および PlateSpin Forge が Linux ボリュームを処理する方法に問題があり、UUID によってマウントされた SLES 9 ワークロードの保護に悪影響を及ぼすことがあります。この問題は現在調査中です。
回避策: ワークロードの `/etc/fstab` 環境設定ファイルを、ストレージデバイスおよびパーティションの UUID ではなくデバイス名を使用するように変更します。[ナレッジベースの記事 7010812](#) を参照してください。

4 連絡先情報

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。改良点に関するご意見は、[Documentation-Feedback@netiq.com \(mailto:Documentation-Feedback@netiq.com\)](mailto:Documentation-Feedback@netiq.com) まで電子メールでお寄せください。貴重なご意見をぜひお寄せください。

詳細な連絡先情報については、[サポート連絡先情報 Web サイト \(http://www.netiq.com/support/process.asp#phone\)](http://www.netiq.com/support/process.asp#phone) を参照してください。

一般的な会社情報と製品情報については、[NetIQ の Web サイト \(http://www.netiq.com/\)](http://www.netiq.com/) を参照してください。

他のユーザや NetIQ のエキスパートとやり取りするには、弊社の [コミュニティ \(https://www.netiq.com/communities/\)](https://www.netiq.com/communities/) のアクティブなメンバーになってください。NetIQ オンラインコミュニティでは、製品情報、有益なリソースへの役立つリンク、ブログ、およびソーシャルメディアチャネルが用意されています。

5 保証と著作権

本書および本書に記載されているソフトウェアには、使用許諾契約または守秘契約が適用され、これらの条項の下に提供されます。上記ライセンス契約または守秘契約に明示されている場合を除き、NetIQ 社は、本書および本書に記載されているソフトウェアを「現状のまま」提供するものとし、明示的、黙示的を問わず、商品性または特定目的への適合性に対する黙示的な保証を含め、いかなる保証も行いません。州によっては、明示的、黙示的を問わず、特定の取引に関する保証の否認が認められていないため、この記述が適用されない場合もあります。

本書および本書に記載されているソフトウェアは、法律によって認められた場合を除き、NetIQ 社が書面をもって事前に許可しない限り、貸出、販売、譲渡することはできません。上記の使用許諾契約または守秘契約に明示されていない限り、NetIQ 社の書面による事前の同意がない場合は、本書および本書に記載されているソフトウェアのいかなる部分も、電子的、物理的、またはその他の方式を問わず、いかなる形式や手段においても再現したり、情報取得システムに保存または転送することは禁じられています。本書に記載されている会社名、個人名、データは引用を目的として使用されており、実際の会社、個人、およびデータを示していないことがあります。

本書は技術的な誤りおよび誤植を含むことがあります。本書の情報は定期的に変更されます。定期的な変更は、本書の新版に組み込まれることがあります。NetIQ 社は、本書に記載されているソフトウェアに対して、随時改良または変更を行うことがあります。

© 2014 NetIQ Corporation and its affiliates. All Rights Reserved.

本製品が FIPS 準拠を主張する場合、以下に示す Microsoft 暗号化コンポーネントを 1 つ以上使用することで準拠しています。以下のコンポーネントは Microsoft によって認定され、CMVP によって FIPS 認定を取得しています。

893 Windows Vista Enhanced Cryptographic Provider (RSAENH)

894 Windows Vista Enhanced DSS and Diffie-Hellman Cryptographic Provider (DSSENH)

989 Windows XP Enhanced Cryptographic Provider (RSAENH)

990 Windows XP Enhanced DSS and Diffie-Hellman Cryptographic Provider (DSSENH)

997 Microsoft Windows XP Kernel Mode Cryptographic Module (FIPS.SYS)

1000 Microsoft Windows Vista Kernel Mode Security Support Provider Interface (ksecdd.sys)

1001 Microsoft Windows Vista Cryptographic Primitives Library (bcrypt.dll)

1002 Windows Vista Enhanced Cryptographic Provider (RSAENH)

1003 Windows Vista Enhanced DSS and Diffie-Hellman Cryptographic Provider (DSSENH)

1006 Windows Server 2008 Code Integrity (ci.dll)

1007 Microsoft Windows Server 2008 Kernel Mode Security Support Provider Interface (ksecdd.sys)

1008 Microsoft Windows Server 2008

1009 Windows Server 2008 Enhanced DSS and Diffie-Hellman Cryptographic Provider (DSSENH)

1010 Windows Server 2008 Enhanced Cryptographic Provider

1012 Windows Server 2003 Enhanced Cryptographic Provider (RSAENH)

また本製品は、以下に列挙する 1 つ以上の **Open SSL** 暗号化コンポーネントを使用することにより、**FIPS** に準拠している場合があります。これらのコンポーネントは、**Open Source Software Institute** によって認証され、記述どおり **FIPS** 認定を取得しています。

918 - OpenSSL FIPS Object Module v1.1.2 - 02/29/2008 140-2 L1

1051 - OpenSSL FIPS Object Module v 1.2 - 11/17/2008 140-2 L1

1111 - OpenSSL FIPS Runtime Module v 1.2 - 4/03/2009 140-2 L1

メモ：本製品で使われている **Windows FIPS** アルゴリズムは、**FIPS** モードビットの設定時にのみテストが実施されたものである可能性があります。本製品のリリース時点ではモジュールの証明書は有効ですが、ユーザの責任において、現在のモジュールの状態を確認してください。

エンドユーザ使用許諾契約に明示されている場合を除いて、ここに記載されているすべての内容に対して一切の保証は行いません。明示または黙示のすべての条件、表明、および特定目的への適合性に対する黙示的な保証または条件を含む一切の保証は、適用される法律が許す範囲で除外され、**NetIQ**、供給者、および使用許諾者はそれらについて一切の保証を行いません。